

# 第1回 吉野町子ども・子育て会議 会議要旨

■日時： 平成24年11月27日（水）PM7:00～9:00

■場所： 吉野町役場2階 第1会議室

■出席者：

	氏名	所属・役職名等
1	池田 宗士郎	吉野町連合 PTA 代表（役員）
2	石田 裕子	奈良県佐保短期大学地域こども学科 准教授
3	大石 さゆり	公募委員
4	大北 司	わかば幼稚園保護者（育友会長）
5	小泉 梓	吉野町議会議員（文教厚生委員長）
6	下中 一平	吉野幼稚園保護者（育友会長）
7	中東 郁雄	小中学校長代表（吉野北小学校長）
8	中村 久己子	吉野保育所長、吉野幼稚園長
9	林 豊子	公募委員
10	部谷 よし子	わかば幼稚園長
11	南 雅樹	吉野保育所保護者（保護者会長）
12	和田 公子	奈良佐保短期大学地域こども学科 教授

■配付資料

- ・資料1 吉野町子ども・子育て会議 次第
- ・資料2 吉野町子ども・子育て会議条例
- ・資料3 「子ども・子育て支援新制度」について
- ・資料4 「子ども・子育て支援新制度」本格施行に向けたスケジュール
- ・資料5 吉野町の子育ての現状
- ・資料6 子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査の概要
  - 子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査（就学前児童用）
  - 子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査（就学児童用）
- ・その他資料

## 1. 開会

### 2. 副町長あいさつ

改めまして、皆さま、こんばんは。お昼は仕事で大変お疲れだと思いますが、また、午後7時という出にくい時間帯にもかかわらず、第1回の吉野町子ども・子育て会議にこうしてご参集くださいましたこと、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

吉野町では、吉野町次世代育成支援行動計画ということで、前期と後期に分けて、これまで取り組みをしてまいりました。平成23年7月に第4次総合計画ができあがり、子育て支援日本一、健康長寿日本一を目指すということで、重点プログラムに位置付けさせていただいています。吉野町教育委員会の方で、3年前に子育て支援室を設置し、3名の専従職員を配置するなか、幼稚園・保育所の皆さんの子育て、家族の方々共々、未就園児の園児さん、親御さんの支援を行ってまいりました。子育ての大切さを私どもも痛感しております。

この9月末に島根県の隠岐の島へ研修で行ってまいりました。海士町という人口1万人ちょっとの町ですが、高校生が28名ということで、いよいよ隠岐の島から高校がなくなってしまうのではないかとというような危機感の中で、いろんな取り組みをされておられます。それが平成20年のことです。それが平成25年になり、26年度には一クラス増やさないと追いつかないというほどになっています。このような島のまちで、どうしてそんなことが起こるのかなという、大変素晴らしい取り組みをなさっておられます。

私は企業誘致担当ということで、しっかりやれということで激励をいただいているのですが、吉野町の土地柄、なかなか人や企業が来てくれるのは難しい状況です。そこで、私が思いますのは、やはり人づくりが大事ではないかということです。そういったことを展望した時に、吉野高校の現実を目の当たりにして、こんな少子化で過疎になっていく吉野町に県立高校があるではないかと。この県立吉野高校をもっと魅力のある高校にしてくように吉野町もお手伝いさせていただく。そういう取り組みが大事ではないかと思っています。

平成22年に吉野中学校が立派に完成いたしました。163人の生徒さんがいらっしゃいます。しかし、こどもの数の推移を見ていると、平成30年には100人を切るかも知れないというような状況です。せっかく立派な中学校ができあがっても、魅力のある吉野中学校になっていかないと、なかなか子どもが行きたがる、親が行かせたがる学校にはならない。地域の方が吉野中学校に行かせる、あるいはまた吉野高校へ行かせるといった町の行政として応援する手立てはないかなということを、島根県の海士町に行って痛切に感じているところです。

吉野町から出て行かれた人が、「吉野町に戻っても仕事がない」というようなことをおっしゃいます。仕事は、やはり第1次産業、いわゆる吉野町の基幹産業であった林業が衰退

していますし、公共事業が激減しています。そういったなかで、仕事を見つけるのが大変ですが、小さい時からふるさと教育を徹底して、吉野の魅力を素晴らしいものに子どもたちが感じ取ってくれたら、一旦は都会に行っても、やっぱり都会の生活に疲れて、吉野はよかったなという心で吉野に帰って、自分で起業するような、そんな人材が育ってくればいいなと思っています。

平成 27 年からの、子ども子育て支援事業計画を策定していただくのが、今日の委員の皆さんにお願いする趣旨でございます。私の私見も申し上げましたが、27 年から子ども子育て支援事業計画が素晴らしいものになりますよう祈念申し上げ、冒頭の挨拶に代えさせていただきます。

### 3. 教育長挨拶

皆さん、こんばんは。本日の会議の開催に際して、委員のご依頼をしましたところ、ご快諾いただきまして誠にありがとうございます。また、公募委員の方々も積極的に応募いただき、ありがとうございました。

会議等の趣旨も含めて、少しお時間をいただき、お話しさせていただきたいと思います。ご承知のように、国や地方公共団体では、平成 27 年から始まる子ども・子育て支援事業の新制度に向けて準備をしています。国では、すでに 25 年 4 月から国ベースでの子ども・子育て会議がスタートし、議論がなされているところです。私ども、地方版ともいえるこの会議については、法律では努力義務とされているところですが、先ほど副町長からも話をさせていただきましたように、子育て日本一を目指すまちということで、大きなキャッチフレーズで取り組んでいるところですので、本日この会議を設置して、今後の子育て支援について、色々と議論いただきたいと思います。この会議では、子ども・子育て支援事業計画について、諮問があった内容について、最終的に建議をいただくということになります。どうかよろしくご理解のほど、お願いいたします。

それから、先ほども話がありましたが、今は国の子育て支援の大きな転換期です。皆さま方におかれましては、それぞれの分野、それぞれの立場におかれて培われたいろいろな知識や経験などに基づき、吉野町らしい吉野でなければというような計画の策定について、ご意見等をいただければありがたいと思います。どうか率直な、また忌憚のないご意見をこれからの会議で聞かせていただけたらと思います。この会議を通して、子ども、そして保護者、また地域が共に育ち合う社会を目指して、子育て支援策を充実させていきたいと思っています。どうか、よろしくご意見申し上げますとともに、「子育てするなら吉野町」と皆さんに言っていただける、地元の人にも言っていただける、またほかの地域の人にも言っていただけるような子育てのまちづくりを目指していきたいと思っていますので、どうかよろしくご意見いたします。挨拶ばかり続いて申しわけありませんが、教育委員会サイドの挨拶といたします。どうかよろしくご意見いたします。

#### 4. 委員紹介

#### 5. 委嘱状交付

#### 6. 事務局紹介

#### 7. 吉野町子ども・子育て会議条例について説明

#### 8. 仮議長選出

#### 9. 議事

##### 1) 会長及び副会長の選出

和田委員を会長に、池田委員を副会長に選出。

##### 2) 諮問について

(事務局説明)

副町長より会長に諮問書が渡されました。

##### 3) 会議の運営等について

(事務局説明)

・子ども・子育て会議運営要綱(案)について

《異議なし》

本日より施行とする。

・会議録の作成について

本審議会の会議録について、会議録については発言者氏名をふせ、要点筆記で作成することとする。各委員が内容を確認したうえで、会長の指名する2名の委員に署名をいただき、公開することとする。指名する2人については順番とする。

《異議なし》

・運営要綱第2条の2、傍聴の取り扱いについて(吉野町子ども・子育て会議傍聴要領案について)

記載のない事項で会議の運営上、必要のある場合は、会長で適宜判断をして、委員の皆さまにご報告することとする。

(一同)

《異議なし》

(会長)

本日の傍聴のご希望はありますか。

(事務局)

本日の傍聴希望者はおられません。

(会長)

今回は諮問書にある通り、吉野町の子ども・子育て支援事業計画の素案をつくることを目的としていますが、現在の吉野町の現状を知り、今後どのような子育て施策を進めていきたいのかという将来像についてなど、非常に重要になってまいります。将来像は今後、会議で議論していくこととし、まずまちの現在と将来をデータからしていくことが必要です。このあたりの共通認識を持つことが大切だと思いますので、資料に沿って事務局より説明をお願いします。

#### 4) 新制度についての説明及び審議内容の確認スケジュール等について

(事務局説明)

資料1～6について

#### 【質疑】

(会長)

ただいまの説明について、ご質問、ご意見等ございませんか。難しく、理解しながら頭に入れるのは困難な内容もありますし、それから吉野町の現状等の関係もありますが、確認等ご意見はございませんか。

(委員)

資料2、会議条例第3条 子ども・子育て会議は、委員15名以内で組織する、とありますが、現在委員は12名となっています。残り3名の枠について、地域のことをよくご存じの民生委員さんや区長さんに議論に参加いただき、状況を把握していただければいいのではないかと思います。

(会長)

私たち以外に地域の状況をよくご存じの民生委員さん、区長さんの方にお入りいただければどうかということですが委員の皆さまのご意見をおうかがいしたいと思います。15名の定員の中に、現在委員が12名ですので、あと3名までなら入っていただけるというこ

とからのご意見だと思いますが、事務局これは可能でしょうか？

(事務局)

委員の定員は15名で、現在12名ですので、お入りいただくことは可能です。

(会長)

区長、民生委員の代表の方に入ってください、また、重ねておうかがいするということで、皆さん、ご意見ございませんか。

(一同)

《異議なし》

(会長)

ありがとうございます。では、事務局の方でよろしくお願いします。

(事務局)

分かりました。

## 5) 意見交換

(会長)

次の審議事項は意見交換となっていますが、最初の会議でもありますので、皆さまより少しずつご意見をいただきたいと思います。どのような意見でも結構です。

資料に関して、またその前の説明についても併せてご意見等ございませんか。では、この機会に意見交換をしたいと思います。ご意見なり、思いなりをお聞かせください。では、よろしくお願いします。

(委員)

私は乳幼児の心理学が専門で、短期大学の方で、奈良市から委託を受けた子育て支援センターをしています。そちらで相談やバックアップをしています。今年度は奈良県と協働で、子育て支援プログラムということで、2歳児という、親が養育するときに困難を感じる人が多いということに対して、子育て支援者であれば誰でもできるプログラムを開発しています。その関係でお声かけいただいたのかなと思っています。私は転勤族ではありませんが、広島、山口、和歌山に住んでから奈良に来たということで、いろいろなところを転々としていましたので、またいろいろな状況をお知らせできると思います。何か一緒に考えることができればと思っています。

(委員)

保護者代表ということで出席しているつもりです。幼保一元化に向けて、いろいろな話し合いをしてきた流れでのこの会だと、私は認識しています。この4月から就労型預かり支援を吉野町教育委員会が実施され、本当に助かっている保護者の一人です。これも吉野町の教育委員会のおかげだと思っています。毎日、就労型の預かり保育に入れているわけではありませんが、精神的にとっても助かっているのは事実です。やはり、いつ熱を出すかも分かりませんし、帰る時間に帰ることができないこともたびたびあり、園長先生に無理を言って時間を融通していただく等、とてもよい支援だと私はありがたく思っています。

就労しているお母さんがとても多いということ、私もすごく感じていますが、その反面、子どもが負担を負っているということも痛感しているのも事実です。ですから、この会を進めるにあたって、ここだけは押さえおきたいと思っているのですが、お母さん、お父さんが働くためのニーズに合った支援策ではなく、子どもが育ちやすい環境をつくるための支援事業になっていくことをまず私たちが念頭に置いてやっていかなければならないと思っています。大人の都合に合ったものになっていくのが、私が一番懸念しているところです。ですから、今回実施されたニーズ調査も私はすごくいいと思っています、この実態調査をしっかりふまえた上で施行し、本末転倒な結果にならないようにしなければなりません。専門的な内容は、有識者の先生たちの意見もうかがいながら進めてもらいたいと思いますので、皆さま、よろしくをお願いします。

(委員)

私は、子どもは放っておいても育つだろうと思っていたのですが、いろいろな事業や会に参加させていただくうちに、最近、本当にありがたいなと思うようになりました。子どもを預けて仕事ができることに、今、本当に感謝しています。

新制度が始まるにあたり、先にパンフレット等を見ましたが、最初に目にとまったのが、所得に応じた保育料になるということでした。それであれば、国がある程度補助することになっていますが、予算は均等には下りてこないのですよね。規模に合わせて予算が下りてくるとなると、どうしても弱いところは予算も少なく、一律の保育支援をしていただけるのだろうか。安くてサービスのいいところに逆に子どもが出ていくような制度にならないようにしていきたいと思っています。また、今日、資料を読んで、かなり責任を感じています。未来を担う子どもたちが、本当に安心して吉野町で育っていくことができるようなまちづくり、保育制度づくりに関わっていくことに責任を感じながら、今後も一生懸命皆さんと討議していきたいと思っています。

(委員)

子ども・子育て会議ができたことはとてもうれしく、そしてまた、最初から参加させて

いただけることが本当にうれしく、その代わり責任も感じています。自己紹介の機会をお借りして、この会議をやっていくうえでの、提案といいますか、個人的な思いを述べさせていただきますと思います。

吉野町は子育て支援日本一という大きな目標を掲げておられますが、その中で、子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、このメンバーにおける役割はとても重要だということに改めて痛感しました。そのなかで、この会議、組織に限られた回数で、また与えられた課題を議論するだけではなく、もっとフットワークの軽いワーキンググループのような組織があればよいと個人的には思っています。それは、議論していく中で、町民の声、まさに子育てを頑張っておられる方々の声を聞いて、コミュニケーションを図って、それをまた皆さんのこの会議の場に持ち帰ることによって、この会議自体の中身も濃くなると思いますし、吉野らしい、吉野町に根付いた子育て施策といいますか、支援の方向性も出てくるのではないかと考えています。私が一番大事だと思うのは、町民の皆さんと距離が近い、そして声が届くような会議や組織を作り上げていくことが大事だと思います。ワーキンググループのようなものが設置されれば、もっとフットワークの軽い、皆さんに頼っていただけるような組織になるのではないかと考えています。検討していただけたらと思っています。

(会長)

今、ワーキンググループのようなフットワークの軽いご意見が出ましたので、ちょっと中断させていただきます。私としては、机の上で、会議の場で、こんなに大勢の皆さんと話をすることも、もちろん大事ですが、もう少し小さなグループで、何かしらもう少し目的がはっきり見えやすいところでご活躍いただくこともよいのではないかと考えています。いただいたご提案を事務局と私の方で検討し、改めてご提案をさせていただくということでもよろしいでしょうか。

(一同)

《異議なし》

(会長)

事務局いかがでしょうか。

(事務局)

先ほどご承認いただきました子ども・子育て会議の運営要綱の第1条で、特にこの会議の運営について必要な事項を定めるとあります。この運営のまさに根幹の部分です。ワーキンググループを設置することについては、会長の方で決めていただけたら結構です。ワーキンググループの設置については、事務局から何ら異議はございません。よろしくお願

いします。

(会長)

そういうことですので、みなさんうなずいていただきましたので、設置するというところで相談させていただきたいと思います。よろしくお願ひします。中断いたしました。続いて、お願ひします。

(委員)

新しく進んでいく子ども・子育て支援、「大きく吉野町の今までの教育のあり方が変わっていくのかな、かたちが変わっていくのかな」とビジョンを広げています。ただ、どのように広げていくのか。どうなっていくのかという不安も一方ではあります。

先ほど小松副町長から、吉野町への企業誘致の話云々いろいろございましたが、現況、吉野町で働いていても、吉野町の幼稚園や保育園に通わせない親がたくさんいます。そこをタブー視して、この議論は進まないと思います。職員の方には少し耳の痛い話かもしれませんが、職員の中にも吉野町に住まず、吉野町で子育てをしない方がたくさんおられます。現況、魅力のある吉野町かというのと、魅力がないということになると思います。何が原因か分かりませんが、魅力がないというのが一つの答えだと思います。子ども・子育て支援を吉野町の売りに行っているわけですから、吉野町をもっと魅力的にしていけることがわれわれの努めと解釈しています。教育の中身、子どもの環境が良くなる、良くならないという目の前のこともそうですが、人口が減っていくなかで、吉野町の財政面についても、一町民としても人口も増えてほしい、財政も豊かになってほしい、教育の現場も良くなってほしいというのが町民誰もが思うことだと思います。その課題に取り組むというのは、非常に難しいことだと思いますが、乗り出したからには一生懸命させていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。

(委員)

私も子どもがいる親ですが、仕事をしている関係で、教育に接する機会は少なく、なかなかこういった現状を把握しきれない状況が多々ありますので、こういう場に来ることができてとてもありがたく思っています。

私の父親は団塊の世代で育ち、その団塊の子どもとして小学校でも100人近い同級生がいましたが、現在、同級生でこの辺で仕事をしている人を探しても、数人ぐらいしかいないという状況です。やはりさびしい思いがいたします。子どもたちは、もつともつと現実が厳しくなると思いますので、またそうならないように、できるだけ吉野町で育っていき、吉野町にかかわっていったらなと、私自身強く思っています。

(委員)

わかば幼稚園の園長をしています。先ほどから出ています、今年度4月から始まった就労支援型預かり保育と子育て支援型保育の2本柱は、2時に保育が終わってからさせてもらっています。やはり就労支援型の預かり保育を希望されているお母さん方は、お仕事もしながら、毎日ではなく、必要な時に預かってほしいというのがニーズなのかなと。わかば幼稚園の地域では3世代の家庭がほとんどですので、おじいちゃん、おばあちゃんの都合の悪い時に預かってもらいたいという方が今のところ多く、これがわかば幼稚園のニーズかなと思っています。

この前、参観日をしたのですが、お仕事を持っているお母さんたちもいるし、おうちにおられる方もいるということで、都合のいい時間に幼稚園をのぞいてくださいということで自由参観という形にし、朝の9時から2時までの間をオープンにしたところ、その日は1日休みを取ったので、1日いてもいいですか、と言われる方がおられました。いいですけど、お弁当を持ってきてくださいねと言いましたところ、お弁当を持ってこられました。そうしたら帰りがけに、話をしたことのないお母さんと話ができたとよかったとおっしゃっていました。うちの園区はとても広いので、こんなふうに幼稚園が動かなければ、お母さん同士つながらないのだなと感じた。今日の職員会議でも、このかたちをやっばりずっと続けていこうと。時期はいつになっても、お母さんたちをつなげていくという方向ではとてもいいことだったと思うので、やっていこうねということを話し合いました。今、自分たちのいるところで何が問題で、どういうことを解決策として持っていたらいいのだろうかということは、教師側の立場だけでなく、やはりお母さん、お父さん、そして地域の方の声がとても大事だなと思いますので、このたびいろいろ聞かせていただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

(委員)

私は16年間介護をしていたのですが、その16年間で結構、世間のことを学ばせていただきました。そして、県で子育てサポーターリーダー養成講座という講座があり、受講してみようと思いました。その講座を受けた関係で、現在は吉野町の子育て事業の中にもあるにこにこランド、にこにこルームのサポートリーダーをしています。

町にはもっとこんなことをしてほしいという行政に対しての希望もありますし、こういう会議に出席したら自分の意見を言えるのではないかと思い、応募いたしました。

私の私的なことですが、子どもが、小学校4年生の時の担任の先生に、「子どもって地元に戻る子育てをやらなあかんで」と言われたのを今でも忘れられません。私も今は天川村の方へ日中働きに行っています。ちょっと遠いのですが、特別支援のお子さんを見るのと、あとは午後の預かり保育をしています。

環境としては、吉野町はエアコンの効いたたたみの部屋など、いろいろとつくっていただいているのですが、天川村では3歳児が帰ったあとの部屋をそのまま使っています。「ここ触ったらあかんで」「ここ壊したらあかんで」とか言いながら、毎日楽しく過ごしているので

すが、今年度に入り、最初は 16 名だった子どもがこれまで 5 名も増えました。お母さん方に聞くと、やはり天川村で育てたいと言って帰ってきたという人がほとんどでした。その魅力は何なのか。吉野町ではそういうことがあるのかなと思ったりもして、そんな吉野町になってほしいということを私は応募の文章に書かせていただきました。そんな吉野町にさせていただくために、皆さんといろいろな意見を出しあって、私も頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

今、ご紹介にあずかりましたように、吉野保育所長と吉野幼稚園長を兼務しています。今年度より、わかば幼稚園が就労型をするというので、うちは幼保合同保育というものを始めました。預かり保育は、毎回申し込まれる方が非常に多く、やはり幼稚園の皆さんも預かり保育を望んでいるのだな、ということを感じています。

幼保を一つにするという大きな使命がありますが、何もかもが初めてづくしで、お針をするように 2 針、3 針前へ進んでは 2 針バックをして、振り返りをしながら明日に備えるというのが現状です。今、振り返ってみると、やれるかな、どうかなというのが本音でしたが、やってみたらやれたねということで、今は少しずつつなぐことに必死で進んできました。これは幼稚園と保育所の保護者の両会長の力がなくてはできないことですし、ましてや教育委員会の力がなければ何も進めてこられなかったと思います。

今、幼稚園では個人懇談をしていますが、保育所の保護者は、働いているからこんな時間には来られないとか、無理だということが非常に多かったのですが、今年はやってみようということで希望を取りました。そうしたら開けてみたらびっくり、みんなご希望なのです。ですから保育所の保護者においては、幼稚園は 2 日間のできることを 3 日、4 日かけて、勤務時間を除いた時間帯で職員が調整をかけているという状況です。

ですから、幼保が一つになるために、これから 27 年度に向けてやっていかなければならないことというのは、子どもたちが育つための環境づくり、そして親支援が一番大事なことなのかなと今、私は痛切に感じています。

幼稚園の方に勤務したのは、まだ 4 年前です。ずっと保育所で育ってきた職員ですので、そこから現場に上がった所長でしたので、初めて幼稚園に勤務し、わかば幼稚園に行かせていただいた時に、あ、幼稚園の保護者ってすごく裕福で、心にゆとりを持っているなということを非常に感じました。保育所の保護者は、常に時間に追われていて、ばたばたと連れてきて、ばたばたと連れて帰ってといった毎日ですが、今、少しずつゆとりを持ってきてくれているのかなと感じます。結構、園庭で、幼稚園の保護者と一緒におしゃべりしたり、仲良くしてくださる姿を見ることが出来ています。今年度は、育友会、保護者会の行事一つ一つ、全部合同でしてくれました。「先生、こないやらなあかんで。やってみようよ」といって、実施してくれたおかげで、保護者同士がつながってきて、少しうれしいなという思いがあります。

ですから、このまま 27 年度に向けて、われわれが力を合わせていこうということで、今日も職員会議を締めくくってここへ臨んでいます。現状はそういうかたちです。いろいろなこと、分からないことがたくさん出てきますが、教えていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

(会長)

保護者をつなげるという話が出ました。つながる、つなげるというお話を聞いていて、柔軟に考えること、こうでなければならぬとか、こうあるべきとか、その辺のことを少し解きほぐしながら、真ん中に子ども、そしてお母さんを置くことによって、子どもも豊かになる。子どもが豊かになれば、地域が豊かになる。それもすべて人と人とのつながりかなと思いつながりながら聞かせていただきました。ありがとうございました。

(委員)

町内の 2 つの小学校、そして一つの中学校の代表をさせていただきます。よろしく願いいたします。本校、吉野北小学校は統合して 7 年目を迎えています。統合のころには、およそ 150 名の児童がいましたが、7 年ほど経過するなかで 103 名になりました。昨年、学校の横に幼稚園を改築した学童保育ができあがりしました。利用者は 32 名です。本校の子どもたちの 3 分の 1 が利用しているというのが実態です。そうしたなかで、私たちは学校教育を進めている者の教育に対する熱い思いや願いをお伝えし、この機会にも、委員さまの意見にも反応しながら進めていけると思っています。学校生活での子どもたちの様子も、現在、町内でおおむねおだやかに小中共に進んでいるところです。親御さんたちのお考えなども大事にしながら進めていきたいと思っています。

(委員)

皆さんの話を聞かせていただいていますと、子どもに対する熱い思いがよく伝わってきました。手が離れて、子どもさんがおられないかなという方や、お孫さんがおられるかなという方でも、やっぱり子どもに対する思いというのは、大変熱いものがあるのだなということがよく感じられました。10 年後、どうでしょうか、この吉野町は。どうなっていますでしょうか。皆さん、どう思いますか。子どもがわいわいいて、遊んで、河原で何かやっているという風景を思い浮かべますか。私は、なかなかそれが浮かんでできません。子どもと話をしても、「私の子、もうおれへんねんけど、これから学校どうなんねやろな」と聞かれたことがありました。また、「幼稚園、どうなんねやろな」と、子どもに聞かれて、正直、私は答えられませんでした。「もっともっと増えるで」ということがなかなか言えませんでした。

10 年、20 年たって、輝いて素晴らしい吉野町になって、子どもが生き生きと

育つ環境に、どうか皆さんの力で少しでも改善していただいで、子どもたちに未来のある、夢のある、そして子育てのしやすい環境にさせていただけたらと思います。このようにして、保護者の方、実際に活躍されている方、実際に教育されている方の意見など、いろいろ聞かせていただいで、本当に一歩踏み込んだ話を聞かせていただいで、大変勉強になります。どうか皆さんの、いろいろなお方のお知恵を、そして皆さんの熱い思いをどうか結集していただいで、この会が有意義に、そして何年か後には、皆様のご縁が素晴らしい縁やっでんなどということになれたらなということで、願いたいと思います。どうかよろしく願ひします。

(会長)

最後にしめていただき、ありがとうございました。そろそろ閉会の時間も迫ってきました。皆さまからいただきました貴重なご意見をこの会の運営に生かしていきたいと思っています。なにぶん、集まる回数も少ないですし、それぞれ皆さんが地域で本当に情報をあちこちで挙げていただきつつ、吉野町はいまこんなことをやろうとしているのだということと、それから人のつながりということを先ほど申し上げましたが、やっぱりつながらなければお一人だけが突出して何を頑張ってみても、付いてこなければ何もならない。かといっで、ハンカチを上げたら下からつつると上がってくるように、誰かが先頭に立って走らないことには、下から上がってくるものもない。その辺のところも、横並びでもいけなひ。かといっで一人だけ別の方向に走るのもよくない。その辺を吉野町の本当に温かい空気の中で、お互いにつながり合っで、いい会を運営させていただけたらと思います。

(会長)

事務局から連絡事項等をお願いします。

(事務局)

今回の会議の予定ですが、2月の中旬に開催する予定です。よろしく願ひします。内容については、現在、集計を行っているニーズ調査について、結果及び分析に基づいて皆さまのご意見をうかがいたいと考えています。また、会議録については、できあがりしだひ、各委員に送付いたします。皆さまの確認が取れしだひ、会長が指名いたしました委員の署名をいただいたあと、公開をしたいと考えていますのでよろしく願ひします。

(委員)

アンケートの調査結果は、今回の会議の前までにもらえますか。事前にいただけたら、読んでから会議に臨むことができますので。

(事務局)

事前にお渡しいたします。

(会長)

では、事前に配布いただけますよう、お願いします。皆さまのご協力を得て、なんとか慣れない会長業務を務めることができました。ありがとうございました。これですべての議題が終わりました。ありがとうございました。

(事務局)

署名委員のご指名をお願いします。

(会長)

中東委員と中村委員を署名委員に指名いたします。

以 上